

## お知らせ

10月13日、14日の二日間、中部電力移動営業所が領内地区で開催され、各家庭を訪問し、電気設備(分電盤)の無料点検を行っていただきました。

2人1組で各家庭の漏電調査を専用の測定器を使い確認をしたり、電柱から家までの引き込線に異常がないかなど、20人の方が領内地区に入っていただきました。

また、配線の状態も確認していただいたり、各家庭での電気の相談にも快くお答えいただきました。

ありがとうございました。



### 訪問先でのインタビュー

家庭内で、どうしてもタコ足配線にしているのがアドバイスをいただき安心しました。専門家にみてもらえることはありがたい。

電気の事について詳しくないので、点検していただき漏電がなかったのがよかった。電気のご相談は、中部電力株式会社 大台サービスステーション 0120-985-324まで

## 役場からのお知らせ

### [インフルエンザワクチン予防接種費用軽減申請について]

昨年、大流行した新型インフルエンザのワクチンが季節性のものと混合されました。健康被害を最小限にとどめることが期待できますので12月上旬までに接種をお勧めします。「接種費用」

	13歳未満の方		13歳以上65歳未満	65歳以上
	1回目	2回目		
生活保護受給世帯の方 (費用軽減対象)	無料	無料	無料	無料
町民税非課税世帯の方 (費用軽減対象)	500円	500円	500円	500円
町民税課税世帯の方 (65歳以上の方のみ 費用軽減対象)	3,600円	2,550円 (1回目と違う 医療機関の場合 は3,600円)	3,600円	1,800円

費用負担の軽減申請は、事前に役場健康ほけん課・出張所で手続きができますので、印鑑をご持参の上、お起こしください。

課税世帯の13歳未満の方には2分の1の範囲内で助成がありますので2回目の接種が終わりましたら申請の手続きをお願いします。(接種済証・領収書・印鑑・通帳)

詳しくは、役場健康ほけん課(82-3785)または出張所(77-2001)まで

## あとがき

今月は久保井戸橋取材しました。写真を見比べるとかなり景色が変わっているのと、木の成長する力強さを感じました。また、散歩中の方にも取材させていただきました。突然、声を掛けさせていただくこともあると思いますが、取材にご協力をお願いします。(久保)

再生紙 100%使用

# 領内出張所 だより

第5号

平成22年10月15日発行  
領内出張所 77-2001

 [ryonai@odaitown.jp](mailto:ryonai@odaitown.jp)

朝夕、めっきり寒く感じるようになってきました。

昼夜の温度差もありますので体調管理には十分にご注意してください。

さて、今回は久保井戸橋の今と昔です。



### 旧久保井戸橋



(手前が南側 奥が神滝側)

現在の橋の下流にコンクリートの一部がまだ残っています。昭和47年3月までは南、大井そして神滝の住民の皆さんには、本流を渡るために重要な橋でした。ダムができる前は、川の水量が多くて渡る時には注意が必要であったとのこと。島谷へ仕事に行く時は、橋の幅が狭かったために自転車を担ぎ、また残業などで夜遅く帰る時には懐中電灯で足元を照らしながら慎重に足を進め、橋の真ん中で深呼吸してから渡りきったとお聞きしました。

そして、滝の上流ということもあり大きな鮎がいたそうです。



完成時の久保井戸橋



現在の久保井戸橋

完成時には、対岸には木も生えてなく現在の立派な桜並木もありませんでした。長い年月で木が大きくなり同じ場所でも建物が見えなくなりました。





10月号(第5号)の「ペンリレー」は、小滝にお住まいの 森 悦子 さんに執筆をお願いしました。  
領内に関する自然・歴史・思い出などを書いてみませんか、「領内出張所だより」に掲載させていただきます。  
せひともご連絡をください。なお、本文は原文のまま掲載させていただきました。

## 「私の宮川村への想い」

私は三歳の時、家族十人で開拓団として旧満州に渡りました。終戦になり十八歳の兄、十歳の兄、そして七歳だった私は、孤児として引き上げてきました。

親戚の援助を受けながら三人の貧しい生活が始まり、中学卒業後、十五歳で名古屋の紡績会社へ就職しましたが、伊勢湾台風で宮川村に帰ることとなり、その後、兄を頼って大阪へ、十五歳から都会という戦場で五十年余り生きてきた私。ほとんど年中無休で働いてきました。苦しい事の方が多い人生、人を信じられなくなった時、いつも励ましてくれたり、勇気を与えてくれたのはふるさと「宮川村」でした。

食べ物がなく貧しかった幼年時代。幼い私は母が恋しくて、墓に行きどれだけ泣いたことか、そんな時代を過ごした宮川村は私の宝物です。主人の関西空港への転勤を機に我がふるさと宮川村に住むことになり、宝くじに当たった事よりも私には喜びでした。

ふるさと宮川村に帰り何か村のPRになることをしたくて、色々なことを考案し自分なりに頑張ってきました。亡き兄が病弱で行けなかった旧荻原高校に人生最後の挑戦をして、六十四歳で昂学園高校に入学し、六十七歳で卒業しました。IT時代の現在、昂学園高校でパソコンを頑張りワープロ二級の資格をとり認知症にならないよ

うに役立てたいと考えています。

宮川村が平成十八年一月十日に大台町となり頑張る気がなくなりました。今までにない淋しさを感じています。私にとって宮川村は苦しい時、楽しかった時に一緒に生きてきました。私の心の中にはいつまでも宮川村は残っています。

今は癒してくれる宮川村領内を九年間、雨の日も5キロの道を朝5時から3キロの靴をはいて歩いています。これからの時代に遅れないように宮川村と共に生きていきます。

第八期生 昂学園高等学校卒業生

(旧 荻原高等学校)

森 悦子 七十二歳

